

# 学習支援計画書（シラバス）

学生は、大学生としての基本的な修学能力を育成するために、自らが修学計画を立案、実行していく学習スタイルを構築する必要があります。そのために、各授業科目の目標、教育内容などを明示した学習支援計画書（シラバス）を公開し、教育内容のオープン化を行っています。また、各学期の最終講義時間に行われる自己点検授業では、学習支援計画書に明記している「学生が達成すべき行動目標」について、各自の達成度の確認を行うとともに、場合によっては学習の補足ならびに、習熟度の向上とさらなる意欲の開発に繋がります。さらに、授業の最後に実施する授業アンケートによって、授業実施内容に関する意見を聞くことで、学生と教員とのコミュニケーションおよび授業内容のさらなる充実化を図っています。

学習支援計画書（シラバス）は、みなさんが修学・履修計画を立てる際に、ぜひとも参考にしてください。学習支援計画書には、以下の内容が掲載されています。

- ① 科目の基本的な情報である単位数や開講期を記載しています。
- ② 科目担当者情報については、授業開始時に担当教員から案内されます。
- ③ 学習教育目標とキーワードおよび授業の概要を記載しています。
- ④ 授業で使用される教科書や参考書を記載しています。
- ⑤ 履修前に必要とされる知識や技能などを記載しています。
- ⑥ 学生の行動目標が明示され、「何ができるようになるか」を記載するとともに、教育プログラムでの教育目標との関係を記載しています。
- ⑦ 評価の方法と割合を記載しています。
- ⑧ 総合力指標で示す数値は、授業運営上、考慮する総合力についておおよその目安を記載しています。
- ⑨ 使用される評価方法ごとに行動目標との関係と、評価の際の実施方法や注意点など具体的な内容について記載しています。
- ⑩ 当該科目で期待される理想的な達成度レベルと、標準的な達成度レベルを記載しています。

平成30年度 学習支援計画書 掲載を希望しない方

①	授業科目区分 修学基礎教育課程 修学基礎科目 修学基礎	科目名 修学基礎 A Basic Style for Study A	単位数 2	科目コード 0001-01	開講時期 1期（前学期）	履修方法 修学基礎第4条を参照			
②	担当教員名	研究室 内線電話番号	電子メールID	オフィスアワー					
<b>授業科目の学習教育目標</b>									
<p><b>学習教育目標</b> 本学での学習態度を担持するとともに、学生生活に備える能力を養育し、学習目標や生活目標を確立し、学習生活に積極的に取り組むことができる。自己管理や自律の実践により、その重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組みたい能力を「学習支援システム」などの活用を通して身につけることができる。学習目標の設定と達成のための計画を行い、自身の進捗を確認し、キャリアデザインの達成を求め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。</p> <p><b>授業の概要および学習上の留意点</b> 1. 学北講義を履修し、「自己目標」「学生生活」の意味や意義を改めて理解することで、本学生としての意識や修学に対する意欲、規範意識を高める。また、本学の規範意識の醸成に有用な方法を発見し、自己学習の意識を高める。 2. 毎日「1週間行動目標」を記録し、web上に入力するなど「学習支援システム」を活用し、自己管理能力を高める。 3. 「疑問解決アドバイス」の活用を通して、自己管理能力の向上を図る。 4. カウンSELセンターへ相談し、自身の強みを認識し、グループでの共有を行い、キャリアデザインの必要性を理解する。 5. 文章・小論文作成の基本的な技法を学習し実践することで、正しい文章表現力を身につける。 6. グループ学習、発表の基本的な技法を学習し実践することで、これらの技法を身につける。 7. 1年次から3年次の履修計画を立てる上での、本学の教育課程、修学基礎教育課程・高度教育課程・理工基礎教育課程・基礎実技教育課程・専門教育課程と教育制度についての理解を深める。 8. 学習・生活など、修学全般についての個人面談を行う。</p> <p>①出席・提出物の遅延を守ることについては特々に厳しく評価する。 ②「学習支援システム」(ウェブシステム)「履修支援ホームページ」(http://edl.kanazawa-it.ac.jp/shugaku/)を積極的に確認すること。</p>									
④	<p><b>【教科書および参考書・リソースブック】</b> 教科書：指定なし 参考書：指定なし リソースブック：指定なし</p>								
⑤	<p><b>履修に必要な予備知識や技能</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「KIT」(KEY)を理解し実践する意志</li> <li>「学生生活」を理解し実践する意志</li> <li>命の工業技術「人間性」を身につける意志</li> <li>「自ら学ぶ」という意志と意欲</li> </ol>								
⑥	学科教育目標 (教育目標)	学生が達成すべき行動目標							
A	「1週間行動目標」などの作成を通して自己管理能力を高め、毎日の行動目標を含めた「自ら学ぶ」態度を確立できる。	① 1週間行動目標を作成し、毎日更新する。							
B	「疑問解決アドバイス」の活用を通して、自己管理能力を高め、本学生としての意識や修学に対する意欲、規範意識を高める。	② 疑問解決アドバイスを活用し、自己管理能力を高める。							
C	課題を履修し、課題内容の体系的な整理を行うとともに、自分の見解を文章で表現することができる。	③ 課題を履修し、体系的な整理を行うとともに、自分の見解を文章で表現することができる。							
D	文章作成の基本的な技法を学習し、ルールに基づいた文章を作成することができる。	④ 文章作成の基本的な技法を学習し、ルールに基づいた文章を作成することができる。							
E	グループ学習を通して自己の強みと他者の長所を対比させ、意見をまとめる。1年次および2年次の履修計画を作成することができる。	⑤ グループ学習を通して自己の強みと他者の長所を対比させ、意見をまとめる。1年次および2年次の履修計画を作成することができる。							
F	本学の学習目標を達成するために、教育課程の履修計画を立てることができる。	⑥ 本学の学習目標を達成するために、教育課程の履修計画を立てることができる。							
⑦	<b>達成度評価</b>								
評価方法		試験	ライブ小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		0	0	30	0	0	0	0	100
⑧ 総合力指標	知識を振り返り方	0	0	10	0	0	0	0	10
	思考・推論・整理する力	0	0	15	0	0	11	0	26
	「学習支援システム」の活用	0	0	0	6	0	0	0	6
	発表・表現・伝達する力	0	0	13	2	0	15	0	30
	学習に継続的関与・意欲	0	0	0	0	0	15	0	15
	学習に継続的関与・意欲	0	0	0	0	0	15	0	15

※総合力指標で示す数値内容は、授業運営上の科目ごとの目安を示したものです。

0001-01

⑨ 評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点
試験	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
ライブ小テスト	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	

●個人面談の無断欠席者は100日の授業を欠席扱いとする。

⑩ 具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間の行動目標を記録し、自己管理することによって、決断力や自己管理能力を高めることができる。</li> <li>文章作成の基礎を理解し、ルールに基づいて、正しく明確に文章を作成することができる。</li> <li>課題を履修しながら要点を整理し、後に自分の意見と照らし合わせて自分の意見の強さを高めることができる。</li> <li>自分の意見を他者の意見と対比させながら整理し、まとめることができる。</li> <li>本学の履修や教育課程を理解し、自己の学習計画を作成できる。</li> <li>授業に欠かさず出席し、提出物の遅延を守ることによって、学習に対する積極的な態度を身につけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間の行動目標を記録することができる。</li> <li>文章作成のルールに従って、文章を作成することができる。</li> <li>課題の内容を整理でき、まとめることができる。</li> <li>自分の意見と他者の意見を対比させることができる。</li> <li>本学の履修や教育課程を理解している。</li> <li>授業に出席し、提出物の遅延を守ることによって、学習態度が向上している。</li> </ul>

0001-01 ⑪ 授業明細表

C.L.P.学習プログラムについて  
 一般に、授業あるいは海外での学習では、「知識などを取り込む」→「知識などをいかに自分のなかに定着させるか、場合によってはチーム活動として、考え、議論し、発信する」→「得た知識を表現、発表、伝達する」→「社会的に評価を受ける。Good Work」のようなプロセスを経て、自分の学びを社会に還元し、社会に貢献する。このプロセスを「C.L.P.学習プログラム」として、各授業に組み込んでいます。学習課題の時間配分には、前記された学習目標に添った学習の時間配分を明示してあります。日本の学習時間単位とは、各授業に合わせた時間配分を明示してあります。学習目標、授業内容、学習方法を明示してあります。詳しくは授業の概要をご覧ください。

回数	授業内容	授業の学習方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)目安
第1回	●新卒採用デザイン 「大学生として学ぶ」ということの意味の理解 《「基礎」と「応用」の違い》「読む」と「学ぶ」の違い、など 【特設】 【特設】 【特設】	指定教室での講義・演習	【課題】 ・1講義の行動課題 ・課題レポート作成 ・課題①キャンパスツアーレポート	30 60 90
第2回	●学長講話(講師:大沢 守長) ・講義「大学で学ぶということ」の講義 ・講義を通して、本学生としての自覚の育成、および、新卒採用の向上 【特設】 【特設】	多目的ホールでの講義の聴講 (定員を超えた場合は、大講堂と同時並行で授業を受講する) 【特設】 ・1講義の行動課題 ・課題レポート作成 ・課題①キャンパスツアーレポート	30 60 90	

⑪各回の授業内容を明示しています。レポートや学習課題、予習・復習の内容を目安となる学習時間とともに記載しています。

## e シラバス

e シラバスは、学習支援計画書と連動するシステムです。科目によっては、e シラバス上に詳細な授業内容や教材・課題といった情報が明示されます。予習・復習にも活用し、学びの過程や自らの成長を振り返ることで、さらなる成長への足掛かりにしてください。

### ■ e シラバスへのアクセス方法

下記の手順で学生ポータルから KIT ナビを開き、参照する科目をクリックします。

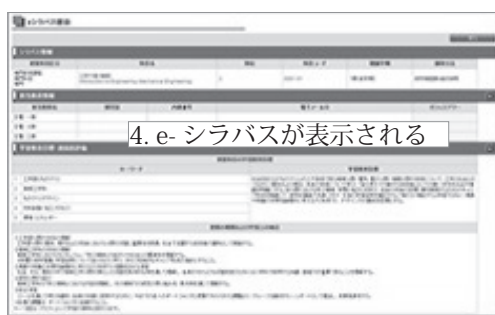
学生ポータル Top



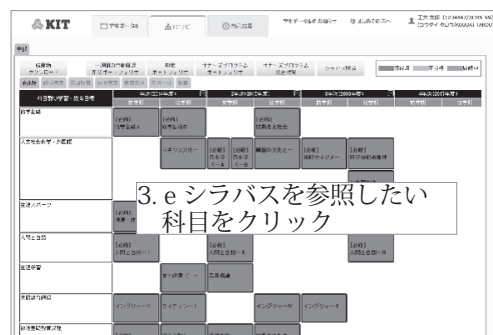
学生個人ページ



e-シラバス



KIT ナビ



e シラバスの詳しい操作方法は、学生ポータルログイン後の画面左側にある「各種マニュアル」から参照できます。科目によっては、教員から e シラバス上で課題の提出などを指示される場合があります。マニュアルを読んでも操作が分からない場合には、「情報処理サービスセンター (p. 90)」に質問に来てください。